特別支援学校高等部　家庭科　学習指導案

《元教材について》

当学習授業案は、消費者庁が作成しオープン教材としている「特別支援学校（高等部）向け消費者教育用教材　～ショウとセイコと学ぼう！大切な契約とお金の話～」（以下、「消費者庁教材」と言う）を主体としている。

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/public_awareness/teaching_material/material_010/special_school.html

「消費者庁教材」は、基礎編と実践編に分かれ、「活用の手引」による解説も充実し、特別支援学校における消費者教育の基本となる教材と思量する。

今回、授業するにあたり卒業後一般就労する予定の生徒をメインとする内容としたいと考え、「消費者庁教材」のフレームワークを活かし、また登場人物（ショウとセイコ）を使用し統一性を残し、対象生徒に必要と考える内容に加筆・削除・修正した。

１　題材名　「消費生活講座」

２　題材の指導計画

流れ	学習内容	教材・備考
１時限目 （１コマ）	１．買物・契約の基本 ２．商品の選び方	（教材）「消費者庁教材」 １.基礎編テーマ【1】買物・契約の基本 ２.基礎編テーマ【2】商品の選び方
２時限目 （１コマ）	１．色々なお金と支払方法について ２．「ネットショッピング」について ３．「相談」の方法について	（教材）「消費者庁教材」 １．「基礎編テーマ【3】いろいろな支払方法」加筆・削除・修正 ２．「実践編テーマ【1】ネットショッピング」加筆・削除・修正 ３．「実践編テーマ【3】契約トラブルの対策・対処法」加筆・削除・修正
３時限目 （１コマ）	１．「色々なトラブル」について ２．「断り方」の練習	（教材）「消費者庁教材」 1.「実践編テーマ【3】契約トラブルの対策・対処法」加筆・削除・修正
４時限目 （２コマ）	１．クレジットカードの仕組みについて ２．クレジットカードなどの種類と支払・返済について ３．クレジットカードなどの注意点について ４．お金の使い方を考える	（教材）「消費者庁教材」 １．２．「基礎編テーマ【3】いろいろな支払方法」加筆・削除・修正 ３．「基礎編テーマ【4】お金の上手なやりくり」加筆・削除・修正 ４．今回作成

３　各授業について

➢　【２時限目】

（１）本時のテーマ

１．色々なお金と支払方法について

２．「ネットショッピング」について

３．「相談」の方法について

（２）　本時の目標・目的

１.日頃あまり自分でお金を使う機会が少ないと思われるので、まず「現金」の種類を認識させる。次に「目に見えないお金」として、バス乗車等で使用することがあるだろう「プリペイドカード・ＩＣカード」と「スマホ決済」、さらに「クレジットカード」を認識させる。

２.ＰＣやスマホで使用することがあるだろう「ネットショッピング」について認識させる。

３.本時で学習したような消費生活のトラブルが発生した場合には、「相談」することが重要であることを認識し、その相談相手を誰にするかを考えさせる。また、公的相談機関として「消費生活センター」があることを認識させる。

（３）　授業計画　　（５０分　教室にて、パワーポイント（以下、ＰＰとする）を使用）

時間 （分）	ねらい・学習活動	指導上の留意点	備考
導入 ５	○契約のポイント確認 ・口頭でも成立する ・簡単には取り消せない ・１８歳は成年　責任があり重要 ○商品を選ぶ時のポイント ・本当に必要か？　・情報を良く調べる ・自分で支払えるか？	・前時の学習シートを見て、振り返りながら共有する ・１８歳は大人であること ・大人は少年時以上に、自分の行動に法的責任が伴うこと ・高額の買い物をする場合は、信頼できる人に相談した方が良い	黒板に前時の学習シートを貼る
展開① １０	本時の目標を提示（３つ） １.色々なお金と支払方法について ○支払での心配事を共有する　⇒ 正しく支払うこと、おつりの確認　等 便利なツールについて学習する前段階 ○現金（見えるお金）とそれ以外の（見えないお金）があることを認識させる ・「現金」金種の確認	・目標　ＰＰ以外に黒板に掲示 ・(発問)「お金の支払で難しいことは？」　自分の失敗例を話し、支払での悩みを共有する ・(発問)「日常　どのような支払をしているかを確認する」 ・日本で使われている全金種を黒板に貼りだし確認する	黒板に本時の目標シートを貼る 黒板に金種(10 種)を張り出していく「2024 年新券」絵

	・「カード」の種類の確認 ・「電子マネー　スマホ決済」の確認	・黒板に各決済手段の絵を掲示する際に、知っているかを問う 知る機会とすれば可	黒板にカード、スマホの絵を掲示
展開② １５	２．「ネットショッピング」について 〇ネットショッピングのトラブル事例を紹介し、使用上の注意点を認識させる 事例学習（ＰＰ） ・「頼んだものと違うものが届いた」 ・「偽物が届いた」 ・「こんなネットショップは注意」 〇ネットショッピングのポイントを認識させる　（買う前の行動３つ）	・(発問)「ネットショッピングをしたことがあるか？」 ネット課金の状況確認で可　⇒ 使用状況を見て改めて授業も考慮 ・(発問)「頼んだものと違うものが届いたら、返品や交換はできるの？」 ・連絡先や相談方法(複数)がしっかり表示されているか、実際に連絡がつながるか	黒板に「ネットショッピングのポイント」を掲示
展開③ １５	３．「相談」の方法について 〇本時で学習した色々な消費生活のトラブルが発生した場合には、「相談」することが重要であることを認識し、その相談相手を誰にするかを考えてもらう また、公的相談受付機関として「消費生活センター」があることを認識させる	・(作業) 困った時に相談する人は誰かを考え、記入させる 「信頼できる大人は誰か」 ・身近にいない場合、連絡がとれない場合は、「消費生活センター」がある　電話番号「１８８(いやや)」で連絡できると認識させる ・「相談するときのメモ」で、どんなことを伝えると良いかを認識させる	記入シートを配布
まとめ ５	〇黒板に貼った本時のシートを使い、振り返る 〇迷ったり、困った時には、信頼できる大人や、「消費生活センター」に直ぐに相談することを再確認させる	・色々な購入手段がある ・購入前に良く調べ、考えることが重要 ・相談できる人と「消費生活センター」電話番号（１８８）の確認	黒板に貼った本時のシートを確認

➢ 【３時限目】

（１） 本時のテーマ

１.「色々なトラブル」と、その「断り方」の練習

（２） 本時の目標・目的

１.若者をターゲットとした悪質商法による消費者被害の実態を認識させる。

２.消費者被害・トラブルを未然に防ぐための「断り方」をロールプレイングで学習する。

３.本時で学習したような消費生活のトラブルが発生した場合には、「相談」することが重要であることを再確認する。またその相談相手として、身近な信頼できる大人の確認と、公的相談受付機関として「消費生活センター」があることを再認識させる。

（３） 授業計画 （５０分 教室にて、パワーポイント（以下、ＰＰとする）を使用）

時間 (分)	ねらい・学習活動	指導上の留意点	備考
導入 ５	○ 省略 （２時限目 まとめ）参照	・前時の学習シートを見て、振り返りながら共有する	黒板に前時の学習シートを貼る
展開 １０	本時の目標を提示 １.「色々なトラブル」と、 その「断り方」の練習 ○お買い物での失敗は、誰もが経験するが、初めから人を騙す悪質な商売もあることを認識させる ○若者をターゲットとした悪質商法事例を紹介し認識させ、それに対する断り方を考えさせ、発表させる	・目標 ＰＰ以外に黒板に掲示 ・(発問)「お買い物で失敗したことは？」自分の失敗例を話し、自分や家族の買い物失敗例を共有する ・(生徒記入用シート配布) 「どんな断り方をしますか？」 ・各ケースにある３つの回答事例は選択肢ではない 生徒に考えてもらうための例である ・ただし、ハッキリ、明瞭に断るワードであることが重要であり、最後はそのことを伝えて正しい形で終了することが必要	黒板に本時の目標シートを貼る 黒板に回答シートを貼る

	事例①　先輩（友人）から呼び出されてアポイントメントセールスを迫られる 〇悪質商法　ストーリー紹介し対応を考えさせる 〇悪質商法　ポイント説明し理解させる 〇悪質商法　「断り方」を考えさせる 〇ロールプレイによる断り体験 事例②　友達から誘われて（マルチ商法）　連鎖販売取引 〇悪質商法　ストーリー紹介し対応を考えさせる 〇悪質商法　ポイント説明し理解させる 〇悪質商法　「断り方」を考えさせる 〇ロールプレイによる断りを体験させる 事例③　名前を貸してと頼まれて（名義貸し） 〇悪質商法　ストーリー紹介し対応を考えさせる 〇悪質商法　ポイント説明し理解させる 〇悪質商法　「断り方」を考える 〇ロールプレイによる断りを体験させる	ケース①　余計な物を売りつけられる （アポイントメントセールス、マルチ商法、デート商法　等） ・ちょっと待って！ （発問）「あなたなら買う？」 「買わない？」 ・悪質商法の内容確認ポイントを認識させる ・自分の「断り方」を考えさせる （ロールプレイ） 正しく終わる ・ちょっと待って！ （発問）「あなたなら買う？」 「買わない？」 ・悪質商法の内容確認ポイントを認識させる ・自分の「断り方」を考えさせる （ロールプレイ） 正しく終わる ケース②個人情報を書かされる （名義貸し） ・ちょっと待って！ （発問）「あなたなら買う？」 「買わない？」 ・悪質商法の内容確認ポイントを認識させる ・自分の「断り方」を考えさせる （ロールプレイ） 正しく終わる	

	事例④　デート商法・キャッチセールス 〇悪質商法　ストーリー紹介し対応を考えさせる 〇悪質商法　「断り方」を考えさせる 〇ロールプレイによる断りを体験させる 〇悪質商法　ポイント説明し理解させる	ケース③待ちで知らない人に誘われる （ネットで知り合いになり街で会う） ・前例までのようなストーリー説明ＰＰは省略しているので、口頭で説明する ・自分の「断り方」を考えさせる （ロールプレイ） 正しく終わる ・悪質商法の対応ポイントを認識させる	
まとめ ５	〇悪質業者は理由をしつこく聞いてくるが、断るのに「理由はいらない」ことを認識させる 〇黒板に貼った「断り方」見本シートを使い、はっきりと「お断りします」と言うことを認識させる 〇シート「私はこう断る！」を全員で唱和し体験させる 〇契約するまで「家に帰さない」や、「家から退去しない」などのケースでは、「帰して下さい」「帰って下さい」等と大きな声で続けて３回言うことを、全員で唱和し体験させる 〇証拠を残すことも効果的であることを認識させる（スマホ等による録音・録画の活用） 〇迷ったり、困った時には、信頼できる大人や、「消費生活センター」に直ぐに相談することを再確認させる	・色々な悪質商法があるので、契約、購入前に良く調べ、考えることが重要 ・「理由」を説明しようとすると、次から次にその「理由」を否定してくるので注意する はっきりと自分は「いらない」「契約しない」「記入しない」等と言えばよい ・これでも相手が言うことを聞かない場合は、違法行為となるので、即「警察」（１１０番）に電話する ・証拠とするために、しつこい勧誘には、スマホで録音・録画しておくとよい ・相談できる人と「消費生活センター」電話番号（１８８）の確認	黒板に「断り方」見本シートを貼る

➢ 【４時限目】（２コマ）

（１）本時のテーマ

１.クレジットカード等「後払い方式」のカードやアプリ（以下、「クレジットカード等」という）について

２.お金の貸し借りについて

３.お金の使い方を考える（基礎段階）

（２） 本時の目標・目的

１.２時限目の「色々なお金と支払方法について」で、（見えないお金）「クレジットカード」の基礎的学習をしたが、「クレジットカード等」のカードやアプリの仕組みと、利用時の注意点を学習し認識させる。

２. 日常では、奢ってもらい、奢ってあげる等の行為があるため、基本的に、個人間のお金の貸し借りはトラブルの原因となりやすいこと、お互いが信用・信頼を無くし、友情にもひびが入りお金も友達も無くす原因にもなりやすく、初めから断ることが良いことを認識させる。

３.本時の「クレジットカード等」の過剰使用と、「お金の貸し借り」に関連する、大切なお金の使い方（貯蓄・必要なもの・欲しいもの）を考えさせる。（基礎段階）

（３） 授業計画 （８０分 教室にて、パワーポイント（以下、ＰＰとする）を使用）

時間 （分）	ねらい・学習活動	指導上の留意点	備考
導入 ５	○ 省略 （３時限目 まとめ）参照	・前時との学習シートを見て、振り返りながら共有する	黒板に前時の学習シートを貼る
展開① ６０	（２時限目の目標シート）から 「１.色々なお金と支払方法について」で学習した「クレジットカード」について、さらに詳しく学習することを伝え本時の目標を提示（３つ） １.クレジットカードの仕組みについて ○ＰＰで分割説明 ・仕組み ・年会費、損害保険料 ・カードの種類 ・支払方法（一括払い、分割払い、リボルビング払い）	・目標 ＰＰ以外に黒板に掲示 ・（発問）「欲しい物があります。お金がありません。どうしますか？」生徒の考えを拾い、手持ちのお金が無くても物が買えるクレジットカードについての導入とする。 ・前半は、便利な機能・制度・種類・支払方法を解説し、後半に借金であること、返済計画を考えることの重要性、注意点を解説する	黒板に本時と２時限目の目標シートを貼る 黒板に「クレジットカードの仕組み」全体図とカードを貼る

	２．クレジットカードなどの種類と支払・返済について 〇借金であること、利息・手数料が必要なことを認識させる ・リボルビング払いの返済例を解説し、リボ払いは利用しない方が良いことを認識させる 〇「代金後払い方式」のカード・アプリには、クレジットカードの他に、「バイナウ・ペイレーター（ＢＮＰＬ）」があることを認識させる ・クレジットカードとＢＮＰＬの違いを解説 ・ＢＮＰＬは返済が滞った場合に、返済遅延利息・手数料が高いことを認識させる 〇クレジットカード、ＢＮＰＬ等の「代金後払い方式」のカード・アプリは借金であり、自分が利息・手数料をプラスして返済しなければいけないことを認識させる ・使い過ぎで、返済不能となり生活ができなくなる人が少なくないことを認識させる ３．クレジットカードなどの注意点について 〇ＰＰで分割説明	（寸劇）「借金には利息・手数料がかかる」1000 円を貸して ・リボ払いは、高額利用で返済期間が長期になればなるほど利息・手数料が高くなる（要注意！） ・「バイナウ・ペイレーター（ＢＮＰＬ）」は、既に「〇〇ペイ」の便利な付加サービスとして普及している　信用調査が無いので、収入が無くても所持することができる （知的障碍者も広く所持可能なだけに、過度な利用が心配される） ・ＢＮＰＬは、利息・手数料がかからなく便利でお得感があるが、一旦、支払遅延となった場合の返済遅延利息・手数料が高く、米では返済不能者が多く社会問題化している ・若者の「多重債務者」がいる （複数の貸金業者から借金をし、利息・手数料が「雪だるま式」に増え、返済ができなくなってしまう） ・便利だが、返済計画を考えて使うことが必要であることを認識させることが重要	1000 円札と 200 円を提示

展開② １０	４.お金の使い方を考える 〇家計のマネジメント 以下のことを認識させる ・生活するためには、お金が必要（支出） ・「働く」ことでお金が支払われる（収入：給与、公的年金） 〇「欲しいモノ・やりたいコト」（ウォンツ）を全てやっていたら、お金が足りなくなる 〇生活するには、絶対支払わなければならない「必要なモノ・コト」（ニーズ）がある 収入から、先ず①「必要なモノ・コト」（ニーズ）にかかるお金を別管理する 次に②将来のために「貯蓄」へ回すお金を別管理する 最後に③自由に使ってよいお金を分ける（少ないかも、０円かもしれない） 〇お金の（収入）（支出）を管理する（マネジメント）ために「家計簿」（お小遣い帳）をつける 〇質問です	（参考）当授業の後に、 「基礎編テーマ【4】お金の上手なやりくり」 へ繋げる ・家計簿をつけて、家計（家の生活費を、計画的に記録する）は良く考えて （発問）（冒頭の発問の繰り返し）「欲しい物があります。お金がありません。どうしますか？」 生徒の考え方の変化を確認する	・黒板に「収入・支出・貯蓄」 各ニーズ「封筒」を貼る
まとめ ５	〇黒板に貼った本時のシートを使い、振り返る	・便利な「クレジットカードＢＮＰＬ」等の注意点 ・家計簿をつけて、お金は計画的に貯め、使うことを確認する	黒板に貼った本時のシートを確認

以上